

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	4段階	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
					評価		
一人一人の自立に向けた力を伸ばす 特色ある神戸の教育を更に発展させる	心を込めてあいさつをしよう	一人一人に応じたきめ細やかな指導の推進	グループ学習、ITC教育の推進、学校図書館を活用した授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習に活用するためのホワイトボード、キッチンタイマーを1学年分10班×4クラス 40セット購入した。 通常学級、特別教室に無線LANを配備した。 学校司書と教科担任が連携して図書館を活用した授業が実施できるよう、職員が工夫した。 学識経験者より、研修、演習、指導助言を受けた。 授業方略については、今後も改善する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的、探究的な学びを支援するため、引き続き授業改善を行う。 よりよい授業を構築するため、教室環境、教材、備品を整備する。 研究開発事業(2年指定)を次年度は更に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板は先生方も使いやすく、生徒も授業がより分かりやすくなる。引き続き、授業改善に取り組んでほしい。 先生方で教材を共有できるよう工夫してほしい。
			<ul style="list-style-type: none"> 学力調査結果の検証と授業改善 各種アンケートの実施 放課後学習教室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査及び神戸市学力定着度調査の結果を分析した。 「授業評価」「育てる教育相談」「学校評価」のアンケートを実施し、結果を分析した。 調査結果に基づき、授業改善に向けた研究を継続する。 放課後学習教室(ポン太モン教室)を火・木を中心に開講した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査や各種アンケートの結果を分析したあと、これらをどのように授業改善に役立てるか、今後も検証を行う。 放課後学習教室や学校図書館を活用した学習環境を整備し、生徒一人一人の学びの向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後学習教室や家庭配信版のについて、アンケートを見ると取組が低迷している。利用方法や利用促進について工夫が必要である。 部活動のない水曜日の生徒の過ごし方について、生徒自らが考え、工夫するとともに家庭の支援が必要である。一方で学校や地域での支援についても検討する必要がある。
		自他の命を尊重する指導の充実 (いじめのない、楽しい学校づくり)	<ul style="list-style-type: none"> 人権、道徳、防災、保育、キャリア教育を通じて、自他の命を大切にする指導を行い、生徒の実践力を高める指導を行った。 全国人権作文コンテストで1年生徒が奨励賞を受賞、学校での取組に対しても表彰を受けた。 特別の教科道徳の導入に向け、準備を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめのない楽しい学校づくり」のためには、予防的・開発促進的教育相談である「育てる教育相談」がより有効な手段である。 この「育てる教育相談」の考え方を「研究開発事業」での取組の核として、全ての教育活動において活用できるように、全職員が研修等で学び、授業等で実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「育てる教育相談」の学習プログラムは、生徒同士の良好な人間関係を築くことができるように支援するのがねらいである。生徒の落ち着いた学校生活が、ひいては学力向上につながるの、継続してほしい。 	
		健康増進と体力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育科を中心として、集団での健康・体力増進に向けた系統的な指導を行った。 宿泊を伴う行事や学校行事を通して、体力の向上を図った。 	B	生徒が互いに声を掛け合って活動する方法が定着している。この取組が生徒の自己決定力を促すとともに学級・学年内での所属の意識の醸成、自己肯定感の向上につながっているため、今後も活動全体を意義のあるものにする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士が互いに声を掛け合って活動することが定着しているのはとても素晴らしいと思う。また、その活動を先生が評価してくれることで自信にもつながる。 	
		部活動の適正な運用と指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 本校の部活動ガイドラインに基づいた部活動の運用と、指導法の工夫を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 神戸市部活動ガイドラインについては、校内だけではなく、全学的な取組状況を踏まえ、今年度の検証が必要である。 今後も、よりよい部活動の運営を目指し、部活動検討委員会において職員間の共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部支援員や外部指導員の支援を得て、先生方の負担軽減と安心・安全に向けた指導を行ってほしい。 	
		生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部、正副委員長が主体となり、全校及び学年集会を運営した。職員の指導・助言により、落ち着いた雰囲気での集会を行うことができた。 生徒会執行部が中心となり、朝の週番活動であいさつ運動を行った。教員についても常時ローテーションで指導にあたりたい。 生徒の主体的な企画、運営ができるよう心掛けた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を本校の大きな柱の一つとして、生徒の主体性、コミュニケーション能力の育成を図るため、計画的に活動する。 標準服、体操服、カバン、持ち物等についての見直しを図る。 生徒会規約、選挙規定等についても見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や正副委員長が主体的に集会を運営するのはとてもよい。 生徒会活動の経験は、将来も役に立つと思われる。 	
		ユニバーサルデザインの導入と合理的配慮の実践	<ul style="list-style-type: none"> 各学級に同一規格の連絡用ホワイトボードを導入し、授業中の黒板の使用に配慮した。 教室での掲示方法については十分に共通理解ができなかった。 生徒一人一人に対して、よりよい環境を提供する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインについての職員研修を行う。 生徒一人一人に対して、よりきめ細かく対応する。 学校環境整備を全職員で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に活動の予定が分かりやすく、過ごしやすい環境を構築してほしい。 	

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	4段階	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
					評価		
教職員・学校の魅力と実力を磨き高める	コミュニケーション能力の育成		「研究開発事業」の継続実施	・総合教育センター2年指定事業を受け、学識経験者より指導助言を仰ぎながら、今年度は全学年全学級で2回の研究授業を開催した。 ・また、学識経験者による講演会、職員へのワークショップを開催した。	B	・チームで実践活動を行うことと、OJTの充実を図ることが目標である。 ・そのために「育てる教育相談」の手法、次期学習指導要領に向けた指導の充実を図ることで職員の授業力・実践力を高め、本事業を推進していく。	・学級活動、道徳、総合的な学習の時間等において、計画的に指導を進めることが望ましい。
			職員会議資料のペーパーレス化及び神戸市情報基盤サービス(KIFF)の機能的な運用	職員会議はほぼペーパーレスで行った。KIFFの校内連絡掲示板、回覧板を用いて情報共有を行った。	B	・紙ベースでの情報共有が必要な場合もある。 ・フォルダ内へのデータ格納を確実に行う。 ・ディレクトリ割り当ての再構築が必要である。 ・神戸市情報基盤サービスを全職員が積極的に活用する。	・先生方の業務については、全体的に改善されていないのではないか。 ・業務量や部活動に関わる時間等考えると、総量が変わっていないのなら最低ランクの評価がついてしまう。教員の定数増を委員会事務局に要望するなど、根本的な改革が必要である。 ・学校以外が担う業務、といて簡単に丸投げすることができない。 ・学生の中には教職課程の履修者数が減少している。 ・教員の増員が業務改善につながる。 ・教育委員会事務局の業務として就学援助事務など、一歩進んだところもある。
			業務改善と多忙化の解消	よりよい教育活動を推進することと、業務改善、時間外勤務時間の短縮のために、教育活動全体について抜本的な見直しを行う。	C	・業務量の軽減を図ることが困難であり、職員の多忙感は解消されていないのが現状である。 ・校務分掌をはじめ、次年度の学校運営について、全職員で見直しを図る。 ・校長がリーダーシップを発揮し、職員の組織的活動を促進する。	
市民が自ら学び子供たちの育ちを共に支える			広報活動の推進 (学校ホームページ及び学校だよりの内容充実)	学校ホームページについては、学校行事等に合わせて適宜更新した。学校だよりは月初めに1回発行した。	B	・学校ホームページの運用方法を改善する。 ・学校だよりにについては、よりよい紙面の提供とともに業務負担の軽減を図る。	・魅力ある広報活動が必要である。
			生徒の地域活動への参加促進	地域の夏祭り、飯盒炊爨、秋祭り、餅つき大会、防災訓練などに生徒ボランティアや部活動単位で参加し、地域の方々にもご指導いただいた。	A	・地域団体(ふれまち、青少年協等)の協力を得て、生徒の活動を支援していただいた。 ・次年度は、生徒のボランティア精神を更に醸成するとともに、気軽に地域行事に参加でき、地域の方々「顔の見える関係」を構築するため、生徒、保護者への案内や、活動内容の紹介方法について検討する。	・生徒ボランティアによる地域行事への参加は、生徒へ活動・体験の場を提供することができ、また地域としては、行事の運営において中学生の力を得られ助かっている。 ・運用方法については、学校・生徒・保護者(PTA)・地域が連携しながら進めていくことが望ましい。
			PTA活動の充実	・エントリー制を導入しており、PTA活動がしやすい環境を構築した。 ・月1回の運営委員会の開催した。 ・学校行事、地域行事及び中P連主催事業等へ参加した。	B	・PTA活動へ気軽に参加できるように、広報するとともに、参加協力要請を図る。 ・次年度の円滑な活動を推進するために、PTA本部を中心として準備を進める。	・保護者アンケートによるとPTA活動が子供たちの学校生活にプラスになっている(78%)に対してPTA活動に興味がある(45%)となっており、必要性を感じながらも活動に興味がないところを、広報活動等によって払しょくする必要がある。 ・一度活動していただくと見方も変わるので、気楽に参加してほしい。